

# 特集「高度化するサイバー攻撃に対応するコンピュータセキュリティ技術」の編集にあたって

山内 利宏<sup>1,a)</sup>

計算機とインターネットの普及により、計算機システムは、社会基盤システムだけでなく、身の回りにある家電や車載システムなど、多くのものに広く利用されている。また、個人情報をはじめ、多くの情報が計算機で管理され処理されており、これらの情報を適切に、かつ安全に処理することが必要不可欠である。このように、計算機システムは、日々の生活に欠かすことができないものであり、安全に利用できることが必要不可欠なものになっている。

しかし、機密情報の搾取や組織活動の妨害などを目的としたサイバー攻撃が増加し、かつ高度化しており、サイバー攻撃による脅威が増している。また、ファイルを暗号化して身代金を要求するランサムウェアの流行や、IoT 機器や制御システムを対象としたサイバー攻撃の増加など、攻撃は多種多様化している。このため、様々な環境においてサイバー攻撃に対応できるコンピュータセキュリティ技術がこれまで以上に求められている。

本特集号では、高度化するサイバー攻撃に対応するコンピュータセキュリティ技術について、基礎理論、プロトコル、アーキテクチャ、ソフトウェアシステムの研究、およびそのアプリケーション、実装例、管理運用、さらには行動科学や社会科学的考察をも含めた課題と対策を広く議論することにより、今後のセキュアな計算機システム環境の構築に寄与することを目指して企画された。

本特集号には 33 件の論文が投稿され、途中 2 件の取り下げがあり、特集号編集委員会による慎重な審議を経て英文論文 3 件を含む 12 件の論文が採択された。また、本特集号では 1 件の招待論文を寄稿いただいた。サイバーセキュリティの研究を牽引されている国立研究開発法人情報通信研究機構の井上大介氏と笠間貴弘氏に、ここ数年で大きな問題となっている IoT 機器について、ダークネットで観測された攻撃元ホストの応答結果を分析する手法を用いて、明らかとなったマルウェア感染 IoT 機器の現状について紹介いただいた。本論文の掲載が今後のサイバーセキュリティに関する研究に寄与できれば幸いである。

特集号の編集にあたり、限られた時間の中で、多様な論

文の質の高い査読と各編集作業を経て、予定どおり出版までたどりつくことができたのは、編集委員、査読者、招待論文執筆者、学会関係者の方々の多大なご尽力のおかげであり、厚くお礼を申し上げたい。特に、加藤岳久幹事（東芝）、大東俊博幹事（東海大学）には、取りまとめの中心となって献身的に運営いただいた、心から感謝申し上げたい。

「高度化するサイバー攻撃に対応するコンピュータセキュリティ技術」特集号編集委員会

- 編集長  
山内利宏（岡山大学）
- 幹事  
加藤岳久（東芝）、大東俊博（東海大学）
- 編集委員（五十音順）  
宇田隆哉（東京工科大学）、越前 功（国立情報学研究所）、大木哲史（静岡大学）、大久保隆夫（情報セキュリティ大学院大学）、岡本栄司（筑波大学）、岡本 健（筑波技術大学）、沖野浩二（富山大学）、金岡晃（東邦大学）、姜 玄浩（東京工業高等専門学校）、菊池浩明（明治大学）、齋藤孝道（明治大学）、佐々木良一（東京電機大学）、島岡政基（セコム）、須賀祐治（IIJ）、鈴木幸太郎（NTT）、高倉弘喜（国立情報学研究所）、高橋健一（鳥取大学）、千田浩司（NTT）、手塚 悟（慶應大学）、寺田真敏（日立製作所）、寺田雅之（NTT ドコモ）、鳥居 悟（富士通研究所）、中西 透（広島大学）、西垣正勝（静岡大学）、西出隆志（筑波大学）、野島良（情報通信研究機構）、朴 美娘（神奈川工科大学）、畑田充弘（NTT コミュニケーションズ）、堀 良彰（佐賀大学）、本郷節之（北海道科学大学）、松浦幹太（東京大学）、満保雅浩（金沢大学）、南 和宏（統計数理研究所）、宮地充子（大阪大学/北陸先端科学技術大学院大学）、村山優子（津田塾大学）、毛利公一（立命館大学）、安田雅哉（九州大学）、山田 明（KDDI 研究所）、吉岡克成（横浜国立大学）、吉浦 裕（電気通信大学）、渡邊裕治（日本 IBM）

<sup>1</sup> 岡山大学  
Okayama University, Okayama 700-8530, Japan  
a) yamauchi@cs.okayama-u.ac.jp